



2020年度がスタートしました!
新型コロナウイルス感染症への感染防止のため
4月20日(月)からZoomを活用した
オンライン授業が始まりました。
想定外のスタートとなりましたが、学生・教員共に順調に
春学期授業を進めています。6月2日(火)からは
少人数の科目に限定した対面授業も始まり、
公益大のキャンパスに学生たちの明るい笑顔が
戻ってきました。

02_新体制で2020年度スタート ごあいさつ

新学長 神田 直弥
新学部長 三木 潤一
新研究科長 武田 真理子

03_第3次 教学中期計画を発表
令和2年～令和7年度(6年間)
～学生を伸ばす、地域の未来を創る、
世界に挑む大学づくり～

04_令和元年度ベストアワード ベストティーチャー

教授 遠山 茂樹 (ベストアワード)

05_ 講師 エドモンド・フェック(ベストティーチャー)

06_卒業生へメッセージ

07_新入生を迎えて

08_Topic! & 編集後記



新体制で2020年度スタート 新しく就任された神田直弥学長 三木潤一学部長、武田真理子研究科長より ごあいさつ



神田直弥学長

令和2(2020)年度より、5代目学長に神田直弥教授が就任しました。今回は、神田新学長に加え、新しく就任された三木潤一学部長、武田真理子研究科長から皆さまへのメッセージをいただきました。

東北公益文科大学は地域志向の大学として2001年に開学し、今年で20年目を迎えます。大学の使命である教育、研究、社会貢献のすべての面で地域との関わりを大切にし、地域をフィールドとした授業や、多様な主体との協働、そして学生主体の活動を通して、地域課題の解決や地元地域で活躍する有為な人材の輩出に取り組んできました。

私自身はこれまで4年間にわたり公益学部長を務め、公益学部の教育改革に特に力を入れて取り組んできました。クォーター制(4学期制)の導入や授業時間の延長(90分から105分へ)を通して、学生が能動的に学修に取り組むアクティブ・ラーニングを推進するとともに、留学を行いやすい環境を整えてきました。この結果として、学生の授業外の学修時間が増加し、海外に出る学生も大幅に増加する等、改革の成果が着実に見えてきています。入学者数も4年連続で定員を上回ることができました。

グローバル化やテクノロジーの進展により、社会が大きく変化しています。この変化に対応すべく、令和2年度から新たに6カ年の第3次教学中期計画を策定しました。同計画に基づき、今年度からメディア情報コースを強化し、データサイエンスやビッグデータ解析の講座を開始しました。学習者中心の大学として学生の成長につながる改革を今後も進めて参ります。皆様からのご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

研究と教育の両面で 地域に貢献できる学部づくり



公益学部長 三木潤一

公益学部は、地域経営系と交流文化系の2系6コースからなり、研究や教育の内容において、特定の学問分野に偏っていないことが特色の一つです。今日、わが国が直面しているさまざまな政治経済問題などを考える際、学際的な研究として、複数の学問分野からアプローチする意義は大きいといえます。公益学部の特色を活かし、各教員の個人研究はもとより、地域に根差した共同研究の促進を、学内外と連携して図っていく所存です。

日本の地域は、人口減少や消滅可能性といった深刻な問題に直面しています。教育においては、教員の多岐にわたる専門分野から、学生各人が自らのディシプリンを選択し、それを明確に意識したうえで、自らに直接関わる問題として地域課題の発見・解決に取り組んでいてもらいたいと思っています。

研究と教育の両面から、より一層地域に貢献できる学部を目指してまいります。これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

社会変革期の知・地の拠点を 目指して



公益学研究科長 武田真理子

東北公益文科大学大学院公益学研究科は、世界で唯一の公益学の研究・教育拠点として山形県鶴岡市に開設され、本年で16年目を迎えます。これまで146名の公益学修士と3名の公益学博士を輩出しております。修了生は大学院での研究成果を活かし、行政、民間企業、NPO、教育機関をはじめ、様々な課題解決の現場で活躍されています。

21世紀の国際社会は、環境、経済、人権をはじめとする多くの社会課題と向き合い、多様な主体間のパートナーシップにより新しい社会システムの構築と課題解決を推進することを目指しています。本大学院は、公共経営、国際ビジネス、地域共創・ソーシャルワーク、情報科学の4つの研究領域を柱に据え、社会変革期に求められる学際的な学びと研究を進めています。今後は、産官学の連携を一層強め、共同研究や課題解決の実践と大学院教育との結びつきを高めることにより、知・地の拠点としての発展を遂げたいと考えております。今後ともご支援、ご協力を賜りますよう、宜しく願いいたします。

「東北公益文科大学 第3次 教学中期計画 令和2～7年度（6年間） ～学生を伸ばす、地域の未来を創る、世界に挑む大学づくり～」 を発表しました。

神田直弥新学長のリーダーシップのもと、「第3次教学中期計画」がスタートしました。社会の変化に柔軟に対応しながら、「学習者中心の大学」としての教育活動を推進します。

教育

学習者(学生)中心の大学として、豊かな人間性と倫理性を養うとともに、グローバルな視野を持ちながら、地域の人々とともに、地域社会が直面する課題にリーダーシップを持って果敢に取り組む人材を育てます。

1. 教学マネジメントを強化します。

- (1) 社会の変化を見据えた体系的・組織的な教育を行います。
 - ・ Society5.0やSDGsなど、国内外で共有される目標に基づいて課題解決を図る力を養います。
 - ・ データサイエンス教育を行い、文理横断型の学修を推進します。
- (2) 卒業時の質保証を推進します。
 - ・ 学生が成長を確認しながら学修を進める「学修ポートフォリオ」を充実させます。
 - ・ ルーブリックの活用などにより教育内容の共通化を進めます。
 - ・ ディプロマサプリメントを発行し、卒業時の学修成果を客観的に可視化します。
 - ・ 学生の学修時間の向上に努めるとともに、学びの実質化を進めます。
 - ・ 学修に関わるビッグデータの分析を通じた、教育課程・教育手法の改善を継続して行います。
 - ・ 「公務員試験対策」「社会福祉士国家試験」の対策を強化します。

2. 新たな時代にふさわしい大学像を実現します。

- (1) キャンパスの多様化と活性化を推進します。
 - ・ 課外活動に取り組む機会を豊富に提供し、学修の幅を広げます。
 - ・ ラーニングコモンズ等の学修環境やネットワーク環境を充実させます。
- (2) 高校や他大学、地域との連携を強化します。

3. 学生支援の充実を図ります。

- (1) 奨学制度を見直し、努力する学生を応援する仕組みを充実させます。
- (2) 正課の学修では向上させることが難しいリーダーシップを涵養するため、課外活動が充実するよう支援します。

研究

教員の研究活動を強化します。また教員が確実に研究成果を発表できるよう、積極的な研究支援を行います。

社会貢献(地域貢献)

SDGs、Society5.0をはじめとするグローバルな視点に基づき、本学の教育・研究の成果による社会(地域)貢献を目指します。

1. 企業、行政、NPO・NGO、地域コミュニティ組織、海外の協定締結校等との社会・地域課題解決の取り組みと、地域人材育成を推進します。
2. 自治体、地域住民とともに、環境・防災教育の充実を図ります。
3. 地域に根差した研究ブランディング事業での取り組みを継続的に行います。
4. 学部・大学院の教育プログラムと社会・地域課題解決の現場との融合を目指します。

国際化

グローバル社会に対応し、学生の海外派遣、留学生交流を強化するとともに、国際学術交流を推進し、国際交流体制の整備を進めます。

運営

学長のリーダーシップによるガバナンスと大学マネジメントの強化を図り、責任ある執行体制を充実させます。企画、実施、評価、改善のサイクルを明確にし、戦略的な大学運営を行います。

1. 教学運営について

中期計画期間中に、公益学部の中に国際教養学科(仮称)を設置し、積極的に国際貢献の可能な人材の養成を推進します。併せて英語教員の養成コースの設置も目指します。

2. 大学院改革を推進します。

第3次教学中期計画は
東北公益文科大学
公式HPから
ご覧いただけます。



https://www.koeki-u.ac.jp/about_us/kyogakutyukikeikaku.html

ベストアワードは遠山茂樹教授 ベストティーチャーはエドモンド・フェック講師 に決定しました。

平成29年度から、本学において優れた研究成果をあげた教員に対して「ベストアワード」を、また教育実践に顕著な成果をあげた教員に対して「ベストティーチャー」として、表彰をする制度を設けています。

令和元年度の受賞者はベストアワードに遠山茂樹教授、ベストティーチャーにエドモンド・フェック講師と決定しました。おめでとうございます。

受賞者の遠山教授、フェック講師より、コメントをいただきましたのでご紹介します。



ベストアワード賞の受賞にあたって 遠山茂樹

庄内に移り住んで20年になるが、田んぼに水が引かれる時節になると、決まって小学生の頃に手伝った代掻きを思い出す。私の専門はイギリス中世史だが、かの地の歴史を森や動植物を切り口に読み解いてみたいと思うようになったのも、私自身が宮城県の片田舎で生まれ育ったことと決して無関係ではないようだ。

昨年秋に上梓した拙著『歴史の中の植物』は、歴史・植物・絵画という三つの異分野を相互に関連づけ、西洋の歴史を眺めてみたいというささやかな思いから出発した。もとより、美術書ひとつをとってみても、汗牛充棟、枚挙にいとまがない。それでも、モネの《睡蓮》とパリ万博、それにボルドー近郊の園芸商との結びつきを知った時には、気持ちの昂りを抑えきれず、なかなか寝つけなかった。

ところで、イギリス東インド会社といえば、一般には紅茶やキャリコと相場が決まっている。もっとも専門書をひもとけば、インド成り金なども出てくるが、概して経済史の文脈で語られることが多い。それゆえ、東インド会社が薔薇や石楠花のヨーロッパへの導入に深く関与していた事実は、ほとんど知られていない。本書では、この点について植物の学名を手掛かりに探ってみた。その結果、インド植民地官僚と植物学者の意外な接点も見つかった。小さな「発見」だったが、シャムロックを見つけた喜びは大きかった。

文字通りの拙い書ではあるが、全国各地の新聞で「書評」や「紹介記事」を得たのは僥倖というほかない。意外だったのは、「さながら小説のようだ」とか、「文学作品のような、読み進めるおもしろさがある」という二人の書評子の感想である。正直面映いことこの上なかった。そして、何よりも本学のベストアワード賞を受賞したことは、私にとってはまさに“サプライズ”であり、望外の喜びであった。教職員の皆様にあらためて感謝の意を表する次第である。「日暮れて途遠し」ではあるが、今後はイギリス中世の森の問題を取り上げ、検討してみたい。

最後に、私事で恐縮だが、このたびの受賞を今は亡き妻も空の上で喜んでいるにちがいない。いつもは「最初の読者」でいてくれたが、今回ばかりは叶わなかった。



東北公益文科大学 令和元年度ベストアワード受賞者／遠山 茂樹 教授

(受賞理由)

長年培ってきた専門知識を元に、2019年9月に書籍『歴史の中の植物 花と樹木のヨーロッパ史』（八坂書房）を単著で出版された。この本は全国の新聞各紙で紹介され、高く評価されていることから、受賞者と決定した。

東北公益文科大学 令和元年度ベストティーチャー受賞者／エドモンド・フェック 講師

(受賞理由)

2019年度授業評価アンケートにおいて「科目を通して向上した力」を分析した結果、担当する4つの科目（EAPⅢ(7)、英語Ⅶ(6)、EAPⅢ(8)、EAPⅤ(7)）で学生が高い成長実感を有していた。同アンケートにおける、わかりやすさに関する項目でも評価が高いことから受賞者と決定した。

Congratulations



A Message of Appreciation Edmund Fec

I was honoured to be given the Koeki University award for Excellence in Teaching for 2019. In this short essay I would like to give my feelings about getting the award and my general approach to teaching.

Receiving the award this year meant a lot to me, as it showed that my students enjoyed my lessons and found them easy to understand. As a teacher, my aim is to raise the students' levels gradually. The linguist, Stephen Krashen, in his theory of Second Language Acquisition, talks about the need for "comprehensible input". His Input Hypothesis suggests that if the learner's level is "i", then the optimum level of difficulty of the lesson should be "i + 1". In other words, the contents of the lesson should be "comprehensible" - at or slightly above the current ability level of the students.

This is a widely accepted theory in linguistics, but it is not always easy to put into practice as students have different levels of ability. The question is, how to bridge the gap between the students and raise all their levels at the same time? One approach is to facilitate active learning. Pairwork and groupwork allow students to share language, ideas and experiences. In my classes I like to use role-play exercises and task-based activities including card games and board games. Advocates of task-based language teaching suggest that using the target language to achieve practical goals can be more effective than traditional classroom approaches.

Teaching methods are always evolving, and technology gives us new options for teaching and learning. Teachers now have an amazing number of options of what and how to teach. Whatever we decide must be based on the needs of the students. Will the students find it enjoyable and useful? Will it meet their "i + 1" requirement? These are the questions we should ask ourselves when making a syllabus and deciding the lesson plans.

I am now in my 11th year teaching at Koeki University (8 years as a part-time teacher and now as a full-time lecturer). It has been a real pleasure to teach classes here because of the positive attitude of the students. We have a saying in England, "You can lead a horse to water, but you can't make it drink." If my lessons have gone well, it is because the students were willing to learn. I really appreciate the commitment and enthusiasm of all my students, and I'm looking forward to my next class already!

感謝の言葉
エドモンド・フェック

2019年の公益大ベスト・ティーチャー賞を賜ったこと、非常に光栄に存じます。この記事では、受賞に当たったの所感、および教育に関して私が普段心がけていることを述べていこうと思います。

私がベスト・ティーチャー賞を受賞したということは、学生たちが私の授業を受け、わかりやすい、と評価してくれたことに他なりません。教員としての私の目標は、学生のレベルを徐々に上げていくことです。言語学者スティーブ・クラッシュェンは、第二言語の修得に関する理論において、“理解可能なインプット”の必要性について言及しています。彼のインプット仮説は、仮に受講者が“i”のレベルであれば、授業の難易度として理想的なレベルは“i+1”であるとなります。つまり、授業のレベルは“わかりやすい”——学生の現在の能力と同等か、それより少し上の——必要があるのです。

この仮説は言語学者に広く受け入れられていますが、それぞれ異なるレベルの学生が相手だと、実践するのは容易なことではありません。学生と学生との間の能力のギャップを埋めつつ、同時に彼ら全員のレベルを上げるにはどうしたらよいでしょうか？

一つの解決方法は、アクティブ・ラーニングを仕掛けることです。ペアワークやグループワークでは、学生が自分の言葉、アイデア、経験を共有することができます。私の授業では、カードゲームやボードゲーム等を使用して、ロールプレイ練習およびタスク中心の活動を利用した教授法を実践しています。“タスク中心の外国語教授法”の提唱者は、実際的な目的達成のために特定の単語を使用することで、伝統的な教室内教授法よりもさらに効果が期待できると述べています。

教授法は日々進化しており、技術もまた、教授法および学習法の双方に新たな選択肢を与えています。教員たちは現在、何をどう教えるのかについて、驚くべき数の選択肢を与えられています。それが何であれ、学生のニーズにこたえるものでなければなりません。学生は楽しく、ためになったと感じてくれるだろうか？この授業は彼らの“i+1”の条件に合っているだろうか？シラバスを作り、授業計画を決める際に、我々教員はこのように自問するのです。

私は今、公益大で教えて11年目になります(8年間は、非常勤講師として。今は専任教員として)。学生が積極的なので、ここで授業を持てるのは正直に嬉しいと感じています。イングランドでは、“馬を引くことはできても、馬に水を飲ませることはできない”ということわざがあります。もし私の授業がうまくいったというなら、それは学生が学びたいと思ってくれたからです。学生たちが積極的に、情熱をもって授業に挑んでくれたことに、本当に感謝します。もう次の授業が楽しみでなりません！

令和元年度 ご卒業おめでとうございます。

新型コロナウイルスの拡大防止のため、令和元年度の卒業式、修了式は開催見送りとなりました。そこで本誌では学内から卒業生のみなさんへのメッセージを募集しました。卒業生のみなさんの、社会での活躍をお祈りしています。

ご卒業おめでとうございます。大学で学んだ経験や築いた友人関係は、卒業後も、きっと皆さんを支えてくれるでしょう。ご活躍を、期待しております。

思い出深いことに、ちょうど「サブカルチャー論」を開講したのが、皆さんの入学年でした。試行錯誤の中での講義でしたが、皆さんにいろいろアドバイスをいただいたおかげで、なんとかやっております。

皆さんが船出していくコロナ後の世界は、これまでの世界とは異なる世界だろうと思います。未知の世界ですが、それはだれしも同じ条件です。荒波が襲うかもしれませんが、乗り越えていきましょう。応援しています。

疲れたら夜空を眺めてみませんか
☆☆☆☆

ご卒業誠にありがとうございます。新型コロナの騒動の中での卒業となりましたが、今後それぞれの新たな道でご活躍されますことを心より願っております。

卒業生の皆さん、今どこで
どんなふうに住んでいますか？
近況かせてくださいね。

顔を上げて、新しい場所での新しい生活を楽しみましょう。一步踏み出した皆さんに、私が大切にしている言葉(曲のタイトル)を送りたいと思います。「太陽は見上げる人を選ばない」(櫻坂46)

ご卒業おめでとうございます！
「公益は愛なり！」大学で学んだ「他者の存在」を尊重し、「他者への思いやり」と「他者とのつながり・調和」を大切にする心、それにもとづく思考と行動である「公益」の実践を、共に積み重ねていきましょう！

卒業生のみなさん。
特に社会福祉士養成課程のみなさんと実習や国家試験の勉強などで一緒に歩んできた一年間でしたが、新たな進路でもどうか人生を謳歌してください。

令和元年度卒業生・修了生へ
新しい生活はいかがですか？良い出会いはありませんか？教職員は卒業・修了生のことを気にかけています。ぜひ近況をお知らせください！いつでもおしゃべりにいらしてくださいね。

令和元年度
東北公益文科大学

卒業生の表彰について

1. 成績優秀賞

在学中の学業成績が、特に優勝と認められる学生に授与するもの

賞	受賞者
成績優秀賞	前司 美南
成績優秀賞	佐藤 光

2. 特別表彰

学内外での社会貢献活動、地域との連携・交流活動や、パイオニアの精神を持ち、先導的な活動に積極的に取り組むなど、活躍した学生に授与するもの

賞	受賞者	主な活動内容
理事長賞	渡邊 輝	他の学生たちとともに株式会社hyoiを設立し、学生起業家として活躍している。平成31年3月には、ICTビジネス研究会が主催し総務省や経済産業省の各地方局等が後援した「Challenge IoT Award 2018 ビジネスモデル発見&発表会」の全国大会においてスポンサー賞「光賞」を受賞するなど、その取り組みは全国的にも注目されている。
学長賞	亀谷 千香子 伊藤 千晶 大石 桃菜 佐々木 大器 佐藤 文哉 成澤 友基 丸山 ひとみ	令和2年度から小学校で必修化されるなど、重要性が高まっているプログラミング教育について、プロジェクト「Rubyてらこった」を立ち上げ、教材作成、教育方法の開発などに取り組んで、庄内地域の小学生にプログラミングを指導した。その活動は回を追うごとに発展し、日本最大のオープンソースコミュニティ「オープンソースカンファレンス」においても単独セミナーの形で紹介され、全国に例を見ない取り組みとして称賛された。
後援会長賞	五十嵐 洸太 加藤 雄大 齋藤 翔平	中山間地域である酒田市日向地域の課題解決を図るため、学生活動団体「Praxis」を立ち上げ、「地域の文化伝承」「自然資源の利活用」「関係人口の創出」の3つを活動の軸として、地域内外の人が交流するカフェの運営、地域の子供たちとの星空キャンプ、動画や雑誌の政策等を通したPR活動などを行った。その活動は、NHK Eテレの放送や、株式会社良品計画が運営するウェブマガジン「無印良品 ローカルニッポン」などで全国及び世界に紹介された。

令和2年度 新入生を迎えました。

令和2年度、新入生のみなさん。ご入学おめでとうございます。困難に負けず、新しい時代を生きる人として、さまざまなことにチャレンジしてきましょう。4月6日、新入生ガイダンスでの神田学長のあいさつを抄録します。



ご入学おめでとうございます。東北公益文科大学を代表して心よりお祝いを申し上げます。みなさんの中には卒業式を実施することができなかった方も、いらっしゃるのではないかと思います。新型コロナウイルスは現在、猛威を振っています。私たちがどのようにふるまっていけばよいのでしょうか。私は大切なのは知識であり、理性である、と思います。現在状況は刻一刻と変化しています。我々皆さんのことを一番考えながら取り組んでまいりますので、よろしく願います。

さて、今まで経験したことがないような、非常に難しい状況の中で、私たちは何を学び、そしてどのように行動していけばよいのでしょうか。本学での4年間を考えた場合、皆さんから学んでいただきたいことは3つあります。

1つ目は「公益」です。新型コロナウイルスの状況下では、自分ひとりの問題ではなく、自分の行動が周囲に及ぼす影響も考えなければなりません。自分を超えて、この地域のため、社会のため、日本、そして世界においてよいこととは何か、どんなしくみを作ればいいのか、さまざまな課題意識からぜひ学んでいただきたいと思っています。

2つ目は「グローバル」の視点です。新型コロナウイルスの猛威は、世界中の国々でも大変な状況となっています。対応策を考えていくためには、日本だけでなく世界にも目を向けて、世界から学ばなければなりません。本学に入学したきっかけとして地域で活躍したい、と思った場合でも、地域で活躍するためには世界に目を向けていかなければなりません。本学では国際教養コースがあり、国内の問題だけでなく、広く世界における経済や文化、さまざまな問題について学ぶことができます。また留学制度も充実しています。ぜひ在学中にチャレンジしてほしいと思います。

3つ目は「IT技術」です。現在、本学でもオンライン授業を導入していますが、現在はsociety5.0とい、情報分野で課題解決に活用できるような新しい技術が開発されています。情報技術というのは現在の困難を乗り越える武器になります。本学では2年生でプログラミングを必修で学びます。プログラミングは必

ず将来において役に立つ、と期待できますので、ぜひ積極的に学んでいただきたい、と思います。

これからの社会は少子高齢化、人口減少、グローバル化、テクノロジーの進展等、大きく変化をしていく時代になっています。その中でみなさんは困難なことにぶつかったとしても、それにめげることなく、乗り越えていくたくましさを持ってほしいと思います。そして、出会いを大切に、多くの議論を行い、みなさんの価値観を広げていただきたいと思っています。一年間、非常に大変な状況もあるかと思いますが、ぜひ頑張って取り組んでいただきたい、と思います。

本学は2001年に開学した地域密着型の大学です。地域をフィールドに地域課題の解決に取り組み、地域の方々と連携してさまざまな活動をしている大学です。多くの機会を積極的に活用して、充実した大学生活をぜひとも送っていただきたいと思っています。そしてこの困難な状況の中で、大変ではあったけれども、大きく成長することができた、と胸を張って言うことができる大学生活を送れるよう祈念いたしまして、私からの入学者への言葉とさせていただきます。

それではみなさん、頑張りましょう。

令和2年度、新入生のみなさんへ、教職員からお祝いメッセージを寄せていただきました。

オンライン授業、いかがでしょうか。先生たちも試行錯誤しながら実施しております。個人的には、逆境の中でスキルが身についた感じがしていますが、おそらく学生の皆さんもそうなのではないかと感じています。今後はオンライン授業で培ったスキルを、良い形で学生生活・研究に活かしていけるとよいですね。

コロナ後の世界は、誰も体験したことのない未知の世界です。皆さんの未来は日本国内だけではなく、日本海、太平洋の向こう、海外へと目を向けていきましょう。

COVID-19の影響に伴い、大変な状況下でのご入学になりましたね。私たち教職員、在校生、そして地域の方々は皆さんにお会いできることを心待ちにしています。実りの多い学生生活となりますことをお祈り致します。

ご入学おめでとうございます(もう夏ですが)。新型コロナのために、通常の講義が実施できていません。しかし、私の講義で毎回出している課題等を拝見しますと、皆さんの学びへの意欲が伝わってくるものも多いです。新型コロナに負けていません。ぜひ、この意欲を維持して、膨らませて秋学期にお会いできるように願っています。楽しみにしています。

ご入学おめでとうございます。大学は、皆さん自身が学びたいと思うことをとことん学べる場所であると思います。ご学友と学び合いながら、学びを深めていってください。

新入生の皆さん、入学、おめでとうございます。大学で共に学んでいく仲間・先輩の一人として、心より皆さんを歓迎します。皆さんが実りの多い学生生活を送ることができるよう、お手伝いしていきたいと思っています。

入学生の皆さん、4年間の挑戦プランを立ててみてください。予測困難な世を拓いていくのは君たちです。

鶴岡キャンパスは鶴岡公園に隣接しています。情報教室や致道ライブラリーなどがあり、学部生のみならず大学院オープンキャンパスや様々なセミナーも開催予定です。ぜひお越しください！

大学生活のプレッシャー、困難、挑戦はあなたの成長のための大切な機会である。資格試験、研究、部活、サークル、学生活動などで、自分を磨いていこう。

入学生のみならず。大変な状況のなか、本学を選択していただいたことに感謝申し上げます。本学には、児童養護施設での学習ボランティアサークルなどもありますので興味がある方はぜひ！

物理の分野では、情報分野に近い量子実験でも面白い結果が出ているのと同時に、理論物理学で培われてもきた統計的な手法が機械学習の実装がクロスオーバーするようになりました。オンライン会議が一気に始まったこの時代に、いろいろな興味を広く持ちつつ深く学びきっかけをつかんでください。

ご入学おめでとうございます。政策コースに所属し、年金広報政策の研究教育を行っています。一緒に、年金広報教育の動画を作成しませんか。令和の年金広報コンテストに応募して、厚生労働大臣賞を取りましょう！

【令和2年度入学生へ】
御入学おめでとうございます...と言うのも、お互い気恥ずかしいです。皆さんとはZoom上でのやり取りが中心ですが、チャットでの対話、例年になく「濃さ」を感じています。この状況を「楽しむ」方向で、行きましょう。

ご入学おめでとうございます！豊かな自然と暮らしに恵まれた庄内で、公益的な地域づくりの学びと活動を一緒にできることを願っています。海、川、森、田んぼ、島で、皆さんをお待ちしていますね！

公益大は開学以来「大学まちづくり」を理念に掲げ、地域とともに研究・教育・活動に取り組んできております。まさに「地域がキャンパス」。ここ庄内の地で充実した大学生活になりますことを心よりお祈りいたします。

スルトノフ・ミルゾサイド教授が、日本経済政策学会 2019年度「学術賞」を受賞しました。

本学のスルトノフ・ミルゾサイド教授が日本経済政策学会の学会誌に投稿した論文が学会賞選考委員会の慎重な審査の結果、2019年度「学術賞」に値するものと評価されました。

<学術賞>

Sultonov, M. (2020). The causality relationship between remittances and the real effective exchange rate: the case of the Kyrgyz Republic. *International Journal of Economic Policy Studies*, 14(1), 167-177.

(キルギス共和国における送金と実質実効為替レートの因果関係について)

5月23日に、オンラインにて開催された日本経済政策学会の全国大会の総会にて、審査結果が発表されました。おめでとうございます!



第32回社会福祉士国家試験において、本学から8名が現役合格しました!

3月13日(金)に、第32回社会福祉士国家試験(令和元年度実施)の合格発表が行われ、本学から8名の現役合格者に加え、既卒者4名も合格し、計12名の国家試験合格者を輩出しました。

社会福祉士国家試験は合格率が約30%の非常に難しい試験ですが、現役生合格率は53.3%(昨年度:47.6%)でした。

夜遅くまで学校に残って勉強していた学生たち。「努力が実る」を体現された皆さん、本当におめでとうございます。発表後は、合格者の皆さんから続々と喜びの報告を頂き、本学の教職員も自分のことのように幸せでいっぱいの気持ちになっております。実習など、さまざまな場面でご協力いただきました地域の皆さま、本当にありがとうございました。

資格取得はひとつのゴールあり、新たな出発点でもあります。これから現場で社会福祉士として益々のご活躍を応援しております。本学では、これから資格取得をめざす学生たちにも、ぜひ志の高く仲間と一緒に学んでいただけるようサポートしていきたいと思っております。



新型コロナウイルス感染症に伴う本学の対応について

緊急学生支援奨学金を創設しました。 対面授業も段階的に再開へ

本学では、学生の皆さんの感染防止を第一としつつも、教育サービスを間断なく提供することを目指して、さまざまな対応を行っています。

特に学生への生活支援について「緊急学生支援奨学金」を創設。新型コロナウイルス感染症に伴い、学生本人のアルバイト収入の減少や保護者(実家)の家計急変など、多くの学生が学生生活に不安を感じていることを鑑み、返済義務のない給付型の奨学金を次のように2種類創設しました。

「生活支援給付奨学金」は、学部学生全員に一律「5万円」を本人に現金で支給するもので、5月7日(木)から支給しました。

「ネットワーク環境整備給付奨学金」は、学部学生のうち、オンライン授業を受講するために、改めて情報機器やネットワーク環境を整備する必要がある学生に対し、「3万円」を支給しています。

6月2日からは対面授業も開始され、新しい生活様式の元、学生たちの学びをしっかりと支援していきます。



編集後記

梅雨が明けよいよ夏本番を迎えるこの頃、「公益大ニュース」第4号を発行しました。公益大の新トップの就任に加え、今号から編集チームのメンバーも変わりました。これから、本学の教育・研究・社会貢献活動を広く学外に知らせるよう、全力を尽くして取り組んで参ります。最後までお読みいただき、ありがとうございました。次号も暖かく見守っていただくと嬉しく思います。

広報誌 『公益大ニュース』 第4号 2020.7

E-mail: senryaku@koeki-u.ac.jp

〒998-8580 酒田市飯森山三丁目5番地の1

TEL:0234-41-1111 FAX:0234-41-1133

<https://www.koeki-u.ac.jp/>

 東北公益文科大学
Tohoku University of Community Service and Science